

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 50

令和8年3月10日発行

よりよく生きる

3年生 最後の道徳授業「臓器提供」

3年生にとって、3月3日（火）が、中学校生活最後の道徳の授業でした。最後の授業は、「臓器提供」です。学習した内容を紹介いたします。



資料のあらすじ

臓器提供意思表示カードは、自分の臓器を提供するか、意思を示すためのものである。

高井さん（母）は、娘から臓器移植についての質問を受ける。臓器移植を待ち望んでいる子の命について考えつつも、我が子を優先させたいとも思う。私の考えは狭いのだろうか、自分勝手なのだろうかという葛藤があった。

新見さん（父）は、移植医療の現場を見てきた。家族の臓器は「あげたくない、でも、もらいたい」というのが素直な気持ちであったが、自分は臓器提供をするという考えに至った。

もしも自分や家族に何かあったら、受けていますか？

- ・ 受けています。理由は、家族に少しでも助かる可能性があるなら、できる限りのことはしたいからです。自分に何かあった場合は、自分では決められません。
- ・ 決められません。家族には生きてほしいけど、提供してくれる人にも家族がいるから。
- ・ 自分よりも、他の人を優先してほしいという思いもある。

もしも自分や家族に何かあったら、臓器提供をしたいですか？

- ・ 自分の臓器で、他の人が生きることができれば、してあげたい。
- ・ 自分は、他の人に長生きしてほしいからしたいが、家族には、少しでも生きる可能性があるなら、頑張って生きてほしいから、してほしくない。
- ・ もしも失敗したら、どうなるか分からないという不安があるから、自分はしたくない。

手記を読んで考えたこと、感じたことを書いてみよう。

- ・ 命の重さについて、改めて深く考えさせられました。一つの命が失われる悲しみと、その命によって救われる命があるという現実とは、とても複雑で簡単には答えが出せるものではないと感じました。家族の方がどれほど悩み、苦しい決断をしたのかと想像すると、私も苦しくなりました。この手記を通して、命があるのは当たり前ではないことや、今、生きている時間を大切に生きていこうと思いました。

3年生にとって、中学校生活最後の道徳の授業は、生命の尊さや命に対する価値観について深く考えさせられる内容でした。臓器の提供には、いろいろな考え方があると思います。どの判断が正しく、どの判断が間違っているというものではありません。そんな中で、自分の考えと向き合っていくことは、生命の尊さを実感し、命を大切にしていこうにつながると思います。高等学校では、道徳科の授業はありませんが、道徳は一生を通じて考えていくものであり、今後の自己の生き方の指針になっていくものです。3年生には、ぜひ、中学校での学びをこれからの人生に生かし、よりよい人生を歩んでいってほしいと思います。